

公園をみる・観る

= 積雪に春を想う =

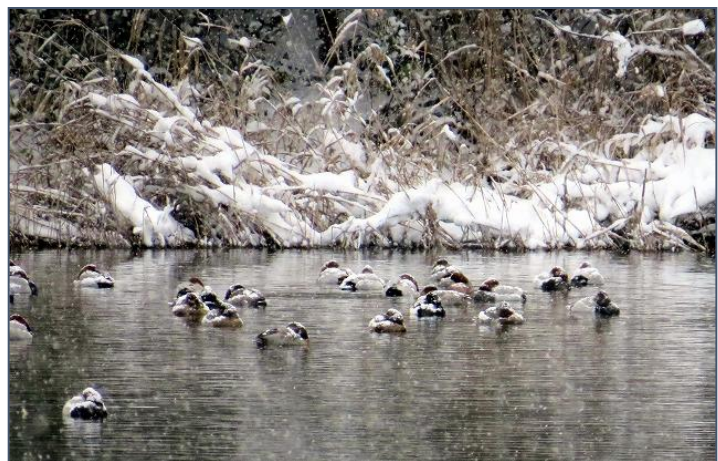
2016年1月24日、朝から雪が絶え間なく降っている。穏やかだった年頭とは一変「何十年に一度の寒波襲来」と鳴り物入りの予報通り、前夜から降り始めた雪は静かに風景を白色に染め続けている。公園の池水面に落ちては消える雪片を見ながら、小寒入りした次の日曜日、公園を初歩きした日のことを思い出す。

その日曜日は、日差しは薄いものの空が青く澄み、風もなく好条件の揃った外歩き日和だった。穏やかな冬陽の中、「春」を探して空を見上げ、池を覗き込み、園路の周囲を眺め回しながら、やはり新春はいいものだと思う。これからしばらく寒い日が何日かあったとしても、じっと待っていると確実に春が来ると保障された安堵感がある。

ツクシを見たとのレンジャーからの灰間で、西側園路の日当たりの良い場所を、草の根を分けるように探したが確認できなかった。ツクシは見た目が筆に似ていることから「土筆」と書くが、ツクシはスギナの胞子茎で成長するとスギナになる。スギナの根にくっついていることから「付子」とも書くという。袴と呼ばれる茶色い葉を取り除き茹でると食用になる。玉子とじにしたり、佃煮にもなるらしいが、ヒガンバナと同じアルカロイドなどを含んでいるので多食は控えたほうがいいそうだ。一年に一度の早春の味なのだが重々ご用心。

そう言えば一般対応チームのメンバーからはウグイスの囀りを聞いたと教えられた。しかも昨年の12月頃にも聞いたという。去年の暮れから年明けにかけて暖かかったからか。ぜひ聞きたいものと耳をそばだててみるが・・・聞こえない、残念。ウグイスは春になると繁殖のため山の奥から出てくるので「奥出す（おくいず）」と呼ばれ、これが訛ってウグイスとなったといわれる。春告鳥、春鳥、報春鳥、花見鳥などと書き表されている。

夕刻になって、積雪10cm余に及ぶがまだまだ降り止まぬ様子。池面に浮かぶカモたちや雪の重みに頭を下げている草木を見ると、豪雪地帯の方々には申し訳ないが「いい絵だなあ」と少なからずロマンチックな気分になった一日だった。（土×土）



雪をかぶって休むホシハジロ（淡水池）